

the japan architect : international edition of shinkenchiku

**ja**

february 1987

**358**



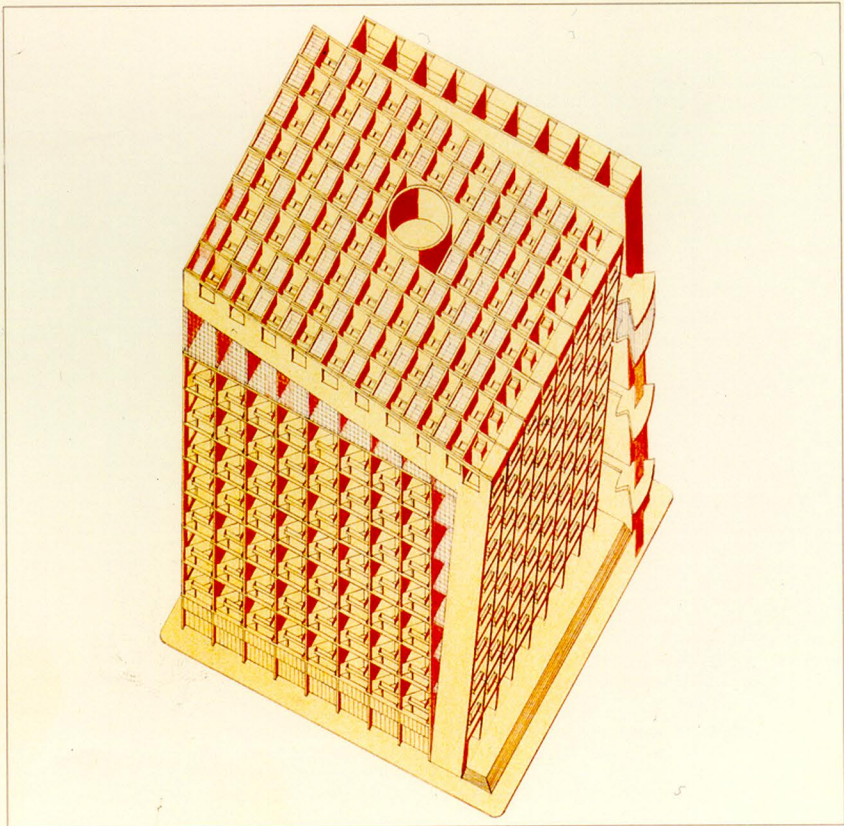
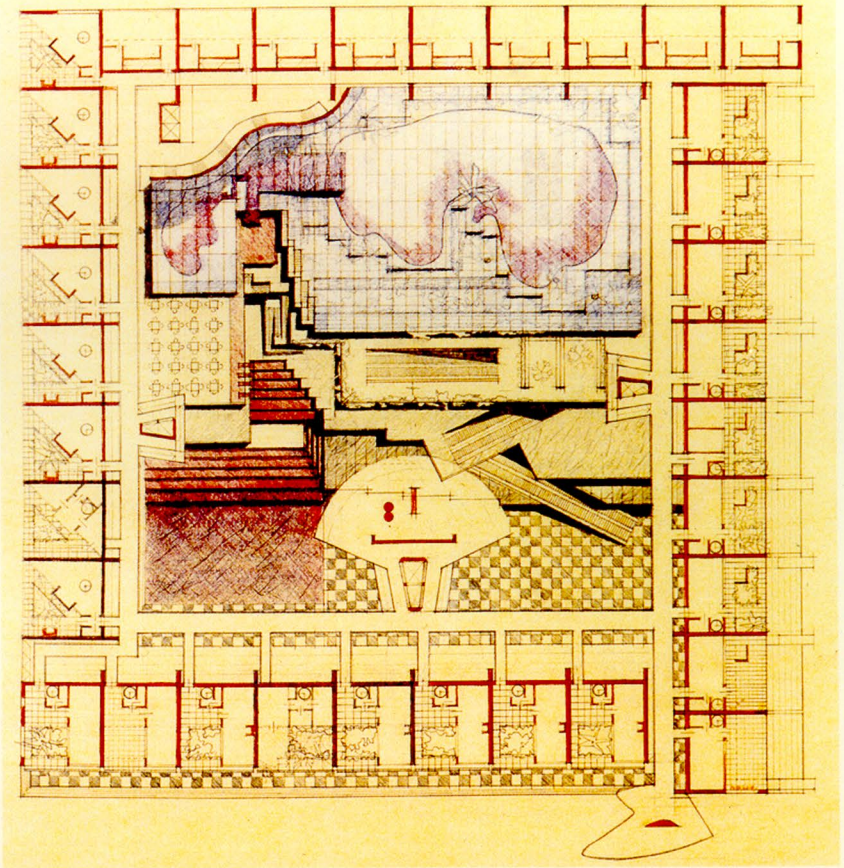


# 佳作

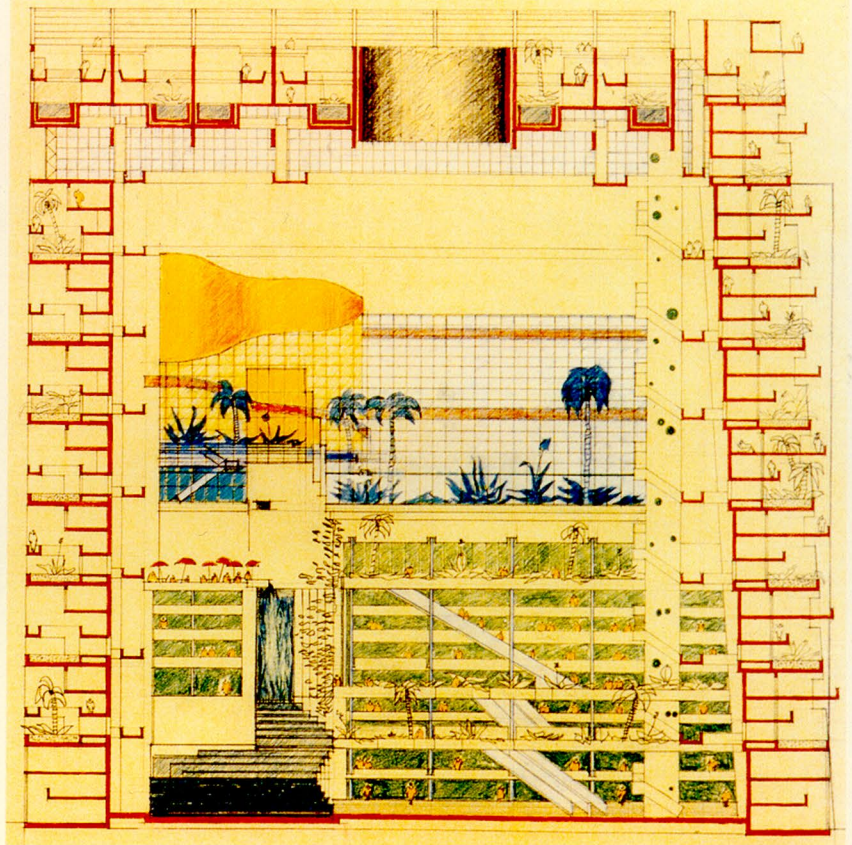


クリストフ・カペラー

1963年 オーストリアのグラーツ生まれ  
1983年 グラーツ工科大学卒業  
1985年 ロサンジェルスU.S.C.大学建築  
学科修士課程修了  
現在 ロサンジェルスで活躍中







アパートメントにより良い眺望と採光を供給するため、同時にアトリウムにおけるアクティビティにより良い環境を与えるために、建物の2面と最上部は傾斜を持っている。

プール、温室、レストラン、劇場、図書館といったアトリウム内の公共施設は、通りと個人のアパートメントとの連絡を形成するようにデザインされ、駐車場を収容する北側の壁に向かって設けられている。

最上階の円筒形の開口部より日光が差し込む。そして建物の四周の割れ目からも採光が可能である。

3階までは、アトリウムへのエントランスを形成する南側を除いて、通りに向かう商業施設が収容されている。

状況：ロスアンゼルスの下町、5～13階建ての古い建物の中に、まばらに高層オフィスビルが建つ。高度な都市構造、相当量の屋上駐車場、成長する都市の住居スペースの需要。気候は穏やかで、1年中、屋内・屋外生活どちらも望むことができる。

郊外地区：この建物は、屋内・外空間におけるプライバシー、植栽といった家族用住宅の長所と、都市環境の高密度の中で家を所有するという気分とを結合させながら、騒音と空気汚染から離れて、しかるべき公共のアクティビティのための空間を供給する。都市における将来の住宅の発達モデルである。

アイデア：アメリカ合衆国では、自分の土地に1戸建ての住宅を持つのが都市でのもっとも望まれる形態であるが、継続的な地価の高騰から大都市ではもはや入手する余裕がない。

一方が開放されている28×28×28フィートの立方体は三次元の建物用地のごとく扱われ、屋内の都市広場として機能し、公共施設と通路を収容する高いアトリウムの周囲に積み重ねられている。これらの立方体群の中に、個々の立方体の屋外空間の3分の2、屋内空間の3分の1に日光を供給するよう、太陽の方向によって住居が建てられている。

各立方体は3層から成り、プールあるいは植栽を装備することができる。

